

令和4年度始良・伊佐地区研究協力校「道德教育」
湧水町立栗野中学校道德教育研修会

1 研究主題

(1) 地区研究主題

「考え、議論する道德」に向けた授業の在り方

(2) 会場校研究テーマ

生徒の道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる授業の在り方

2 研究発表

湧水町立栗野中学校は、令和3年度から2年間にわたり、地区指定研究協力校として、研究・実践に取り組んできました。研究発表では、主体的な意見表明を促す場面設定や多様な意見表明の手段を用いることによる「多面的・多角的な思考を促す工夫」、ワークシートや振り返りシート等による「自己の変容を実感させる工夫」、アンケート機能や心情メーカー等による「ICTの活用」について紹介されました。また、教材・教具の共有化や情報発信等による「道德授業における取組」についても紹介されました。

3 研究授業

2年生と3年生の2学年で研究授業を行いました。

2年生では、青木泰成教諭が「遠足で学んだこと」の教材を使って授業を行いました。自分の考えを明確にさせるために、ロイロノートの付箋を使って、自分の意見をまとめさせました。出てきた意見を生徒と教師で類型化し、それを基に自分の考えを再度整理し直すことができました。また、価値の自覚化を深めるためにメンチメーカーを活用し、自分の考えや学級全体の考えの傾向を視覚的に捉えさせることができました。

3年生では、山本幸平教諭が「好きな仕事か安定か悩んでいる」の教材を使って授業を行いました。ロイロノートの付箋を使い、自分の考えを明確にし、一人一人の意見を視覚的に確認することで、その後のグループや全体での活動の中で、多様な意見交換をすることができました。また、生徒が自分以外の多様な意見に触れることにより、自己の考えを多面的・多角的に捉え、再構成することができました。



【2年生の授業の様子】



【3年生の授業の様子】

4 分科会

分科会では、2年生と3年生に分かれ、授業研究・研究協議を行いました。授業研究では、会場校研究テーマに沿って、「自己の変容を実感させる工夫」、「多面的・多角的思考を促す工夫」、「ICTの活用」について意見交換を行いました。研究協議では、地区研究主題である「考え、議論する道徳」の充実に向けて各学校の取組や日頃の授業での工夫等について、グループで意見交換を行いました。



【グループ協議の様子】

授業研究・研究協議の中で出された意見の主な内容は、以下のとおりです。

【2年生分科会】

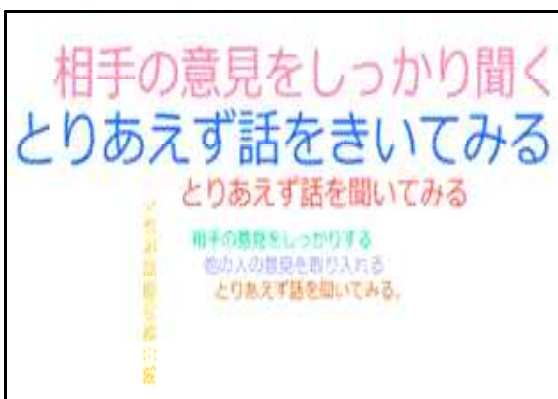
- ICTを活用し、道徳的価値について多面的・多角的に捉えることにより、意見の深まりが見られ、価値の自覚化につながった。
- 変容を感じさせるために、ワークシートを使って、最初の立場と最後の立場を確認する手立てを工夫する必要がある。

【3年生分科会】

- ICTの活用や多様な意見表明の手段を用いることにより、生徒が自分以外の多様な意見に触れ、自己の考えを多面的・多角的に捉え、再構成する機会を確保することができた。
- 生徒自身の考えがどう変わったかを自覚するだけでなく、なぜ意見が変化したのか、また、誰のどのような意見に共感したのかなど、メタ認知の視点を育むような授業の工夫をする必要がある。

【栗野中の特徴的な取組】

多面的・多角的な思考を促すICTの活用



【メンチメーター】

ICTの活用により、主体的な意見表明を促す場面設定の場面においては、「自分事」として捉えさせた上で、自分の意見と他者の意見の違いを実感させることができる。また、多様な意見表明の手段として、メンチメーター等を利用した。このことにより、文章表現に苦手意識のある生徒も意見表明がしやすく、また、互いに考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させることもできた。